

# ひまわり



令和4年2月28日(月)

## No War



ロシア軍が2月24日、ウクライナに侵攻しました。ウクライナのゼレンスキー大統領は、自国に戦時体制の導入を宣言し、ロシアとウクライナは交戦状態となりました。ロシアのプーチン大統領は、「これは、ウクライナに住む自国民保護のための特別軍事作戦である」と言い、侵攻を正当化しています。しかし、世界の多くの国はロシアのウクライナ侵攻に非難の声をあげています。

ここで、ウクライナの近世の歴史を振り返りましょう。「ウクライナ」（現在の正式国名）は、1917年、ウクライナ人民共和国として成立しました。第二次世界大戦後、ソビエト連邦の一部となりましたが、1991年、ソビエト連邦の崩壊により、独立国家となっています。

ロシアは、独立国家であるウクライナに侵攻したのです。皆さんにとっては、日本から遠く離れた東欧の出来事ですから、今ひとつピンとこないかもしれません。しかし、ある日突然、他国が日本に武力攻撃をしかけてきたらと考えてください。何とも恐ろしい事だと思いませんか。

独立国家への正当な理由なき侵攻は国際法違反であり、他国の主権を無視した暴挙です。これは、世界の安全と国際秩序への挑戦です。ロシアの侵攻は決して許されるものではありません。世界の多くの国は、ロシアのウクライナ侵攻を非難しています。

連日、メディアでウクライナ情勢が伝えられています。「戦争はいやだ。死にたくない」、ウクライナの子どもはそう言いました。首都キエフのマンションへのミサイル着弾は衝撃的でした。市街地では銃声や爆撃音が鳴り響いています。ロシア軍の攻撃により、ウクライナ各地では、国民に多くの死者や負傷者が出ています。ウクライナ軍の反撃により、ロシア軍兵士にも犠牲が出ています。

そこで、皆さんに知ってほしいことや考えてほしいことを伝えます。一つ目は、戦争は地球よりも重い人の命を奪う行為であり、ましてや一方的な侵略戦争は許されないものであること。二つ目は、国際化社会を生きる皆さんには、たえず世界情勢に目を向けてほしいということ。三つ目は、世界で起きている出来事は、私たちの生活に何らかの影響を及ぼすということ。四つ目は、日本は他国との間に、領土問題を抱えている国であること。

（例えば、北方領土は我が国固有の領土でありながら、ロシアに実効支配されている。）  
五つ目は、日本や世界の平和のため、自分に何ができるかを考えてほしいということ。

世界中の多くの人々は、戦争を望んでいません。戦争によって多くの犠牲が払われ、多くの幸せが奪われるからです。ウクライナに一日も早く平和が訪れるよう、遠く離れた日本からでも声をあげることはできるはずです。